

AFICAT ニュースレター(日本第9号)

2023年4月21日発行

第9号では、2023年1月中旬～2月中旬に実施したアフリカ2カ国と日本における活動についてお伝えします。AFICATの重点拠点と位置付けられているタンザニアでは現在複数の本邦企業製品の実証を進めています。コートジボワールではJICAの稲作プロジェクトによる農機研修の様子を取材しました。日本ではJICA食と農の協働プラットフォーム(JiPFA)アフリカ農業分科会としてAFICATやケニアに関するセミナーを開催したほか、JICAタンザニア事務所主催のマッチングイベントに参加し、本邦企業向けにアフリカの農業機械化の現状やニーズを説明しました。

タンザニア:松山(株)さま ドライブハローHR3130の試運転

年明けは1月29日からタンザニアで現地活動を開始しました。2月初旬には、農業省傘下のキリマンジャロ農業研修センター(KATC)に届いていた松山(株)さま(以下、松山)のドライブハロー(HR3130-3S)を開梱し、KATCが所有するクボタ製トラクターM5400に装着して、KATC内の水田(約0.3ha)で動作確認をしました。水田は、昨シーズンに収穫された稲株がそのまま残った状態で、前日に水を入れて代掻きをしました。タンザニアの代掻き作業は、耕起をしない「うない掻き」が一般的です。

- HR3130 製品紹介ページ(松山ニプロ)
<https://www.niplo.co.jp/file2021/pdfcatalog/cat16510370250.pdf>



稲株が大きかったこともあり、2~3回同じところを代掻き、土寄せして2時間ほどで作業を終了しました。見学をしていたKATC職員達からは作業スピードが早く、仕上がりが綺麗だと喜びの声があがりました。特にオペレーターから好評だったのは、リアカバーを固定して行う「土引きモード」による土の移動でした。使いこなすにはある程度の操作技術が必要になりますが、土を移動させ易く、水田の均平化を効率良く行うことができます。



今後の活動としては、タンザニアで課題になっている水田の代掻き・均平化の効率的な作業や、生産性向上などについて、松山のドライブハローがどのように貢献できるか等を検証していく予定です。



除草剤散布の様子。ドライブハローによって圃場が均平化され、稲に均等に水が行き渡り、除草剤も圃場全体に広がって効果が上がる。これらによって米の収量増大が期待できる。

タンザニア:バンドー化学(株)さま ベルト耐久性調査

バンドー化学さま(株)(以下、バンドー)は、伝動ベルト、コンベヤベルトなどの産業用ベルトを世界十数カ国で生産・販売するグローバル企業です。



- バンドー化学(株)ウェブサイト

<https://www.bandogrp.com/index.html>

同社の伝動ベルトは、国内の農業機械メーカーに純正品として数多く採用されています。特にコンバインでは多くのベルトを使用して動力伝達を行っているため、消耗部品であるベルトの耐久性は、収穫作業を連続して効率的に行うための重要な要素の1つとしてアフリカの農家にも認識されています。今回バンドーからタンザニアにコンバインハーベスター用のベルト一式を送っていただきました。まずはこのベルトを現地の日本製農業機械に使用して、現地で流通しているベルトと耐久性を比較する調査を予定しています。



破損したコンバインハーベスター用ベルト(赤丸)

コートジボワール:PRORIL2 による ホクエツ製唐箕(とうみ)の研修

JICAの国産米振興プロジェクトフェーズ2(PRORIL2)は、2月8、9日にコメの収穫後処理に関する農家向けの技術研修を開催しました。研修では(株)ホクエツさま(以下、ホクエツ)の唐箕が取り上げられ、PRORIL2の古市専門家が使用方法を実演しました。研修に参加していた農家からは大きな関心が寄せられ、次のような感想を述べていました。



ホクエツ製唐箕を操作する農家



【農家の声】

- 唐箕ははじめて見た。風選の結果を見ても満足だ。
- 自分の地域でもこのような唐箕があるといい。
- 収穫時には賃刈り業者に依頼してクボタのコンバインを使って収穫してもらっているため、そこで1度目の選別ができています。ただし、もみの乾燥時に2度目の選別が必要なため、ホクエツの唐箕はその時に役に立つ。
- なぜなら、野外のコンクリートやビニールシートの上に籾を広げて(?)乾燥させる際に、風が吹くと砂や石が混ざってしまうため(編注:唐箕で砂や石も風選できるが、唐箕選の主目的は乾燥して軽くなった空隙粒、未熟米、藁などを風選すること)。
- 普段は自然の風や手製の箕を使い人力で選別作業しているため、労働者の不足や人件費の高騰が課題となっている。
- 収穫後処理のためには、唐箕のほかに水分計も必要だ。自分の組合で1台所有しているが、農家全員が1台ずつ持つべきだ。



手作業で選別する農家の様子

日本:農経しんぼうへのJICA 専門家 インタビュー記事の掲載

ケニア農業畜産開発省に派遣されており、AFICATにも従事している2名のJICA 専門家へのインタビューの様子が、1月2日発行の農経しんぼう(新春特別号)に掲載されました。

農経しんぼうは、アグリビジネス全般の最新ニュースを掲載する業界紙です。今回のインタビュー記事では、同省機械化局で農業機械化の支援を行っている村上峻一専門家と、栽培局でバリューチェーン調査等を実施されている深井芽里専門家が、ケニアの農業と農業機械化をテーマにインタビューをうけています。現地で活動している専門家ならではの視点が多く含まれていますので、ご関心のある方はぜひ以下のリンク



先をご覧ください。

- 農経しんぼう記事本文(JICA ウェブサイトへ遷移)
<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/glkrjk00000063oo-att/20230102.pdf>



農経しんぼう(2023年1月2日発行)の記事

日本:第2回有識者会合

AFICAT では、日本国内で農業機械に造詣が深い関係者に外部有識者として協力頂いております。1月16日には第2回有識者会合(非公開)が開催されました(2022年8月に実施した外部有識者らによるタンザニア視察の様子は、「AFICAT ニュースレター(日本第5号)」に掲載しました。編集後記に記載した JICA HP よりご覧頂けます)。

当日は、AFICAT 運営チームより活動進捗や今後の計画について報告した後、有識者の皆様より、本邦農機の使い方やメンテナンス方法等に係る現地人材育成の機会の更なる提供等、今後の AFICAT の進め方等に係る助言などを頂き、充実した意見交換の場となりました。今後も外部有識者の皆様とは定期的に AFICAT の進捗を共有し、頂いた意見やアドバイスを AFICAT の運営に活かして参りたいと思います。

日本:JiPFA でのケニア農業事情の報告

1月25日に開催された JICA 食と農の協働プラットフォーム(JiPFA)第4回アフリカ農業分科会において、AFICAT の活動進捗を報告しました。当日はオンラインでの開催でしたが、本邦企業、関係機関等から約70名の方にご参加頂きました。



当日はこれに加えて、ケニアの政治・経済概況、農業および農業機械化の現状や民間企業の活動事例等を JETRO、JICA 技術協力プロジェクト・専門家、本邦企業から6名の登壇者に発表頂きました。ケニアへの進出に関心を有していたり、検討をしたりしている本邦企業の皆さまに対し、ケニアにおける農業機械化の可能性や JICA 事業との連携の可能性をお伝えする良い機会となりました。当日の議事録や各登壇者の発表資料は JICA ウェブサイトの以下ページに掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

- JiPFA アフリカ農業分科会ウェブページ
https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/jipfa/africa_agri/20230125.html

機械化ニーズ:直近の事例

西部灌漑地区では、プロジェクトを開始した2019年には一般的だった人力による“収穫→圃場での天日干(円筒形型)→脱穀→袋詰”は、2022年時点で、大半の農家がコンバインハーベスターによる機械収穫に置き換わっている。

コンバインハーベスターを利用する主な理由(聞き取り):

- ✓ 人力収穫作業に比べて安価 (7,000ksh/acre)
- ✓ 収穫作業が早い (収穫から袋詰めまで約45分/acre)
- ✓ 収穫後ロス削減による収量増加 (人力(約30 bags)→機械(約40 bags))
- ✓ 人力収穫での大勢の労務者確保や日程調整が不要

尾形佳彦専門家(JICA 灌漑地区におけるコム生産強化のための能力開発プロジェクト(CaDPERP))による発表資料の一部

日本:JICA タンザニア事務所主催 ネットワーキングイベント

JICA タンザニア事務所主催による、タンザニア政府機関、JICA 研修修生、本邦企業を対象とした第3回ネットワークイベントが1月26日にオンラインにて開催されました。本邦企業を中心に50名以上の方に参加いただきました。

3rd On-line Networking Event 2023

『タンザニア農業・食品加工・農業機械化の現状と可能性』

JICA Tanzania Office
26th January 2023
From: 15:00-17:00 (Japan Time)
9:00-11:00 (East African Time)

イベント用資料より



当日は AFICAT 運営チームからタンザニアにおける農業の概要や AFICAT の取り組みについて発表し、タンザニア、日本の関係者の方々に広く AFICAT を知って頂く良い機会になりました。

編集後記

AFICAT 対象 5 カ国のうち、タンザニアは唯一コメを輸出しており、他国に比べコメに関する本邦企業の関心が高いことなどから、2023 年はより長く日本人専門家を派遣する予定です。今年からは新たに松山、バンドー化学の 2 社の製品の実証事業を始めました。加えて、他の資機材メーカーの方々とも連携の可能性について協議を進めており、より多くの本邦企業の皆様のビジネス展開を支援していきたいと思えます。本ニュースレターや国内で開催している各種のイベントを通じて、さらに多くの皆様に AFICAT を知ってもらい、アフリカ進出のために積極的な活用をご検討いただけますと幸いです。

編集・問合せ

(株)かいほつマネジメント・コンサルティング

魚住・弓削田・狩野

Tel: 03-5791-5083 Mail: aficat.team@kmcinc.co.jp

AFICAT HP:

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

※ニュースレターの新規登録・登録解除をご希望の方は上記の宛先までお名前、所属先、メールアドレスをご連絡ください。

※AFICAT のご活用に関するお問い合わせも、上記の宛先までご連絡下さい。